



美しい地域づくりのために行動を

野でも、民間でできるものは民間に委ねていくことも必要であると考えておられます。行政は民間の活力や手法を取り入れなければならない、まっせんし、民間は「公」の視点を忘れずにサービスを提供していく時代であると思っております。

水と緑のまち 快適で安らぎが漂うまち

安全で快適な市民生活を実現するためには、今後も道路や下水道など生活に直結する都市基盤の整備を進めることが必要となります。これながら、本市の自然特性を生かしながら、安全、快適な都市空間づくりを努めてまいります。

「域づくり」について述べたところですが、地域の美しさは多様であります。里山や田園の緑、大河の流れ、小川のせせらぎ、小鳥のさえずり、窓辺の花、そこに住む人の輝きや活力、子どもたちの純真な心、歴史や伝統の持つ荘厳さ等々、美しさを見ることが、思い入れの地域が美しさがあります。美しい地域づくりとは、愛情を持って自分の地域を見つめること、そして地域のために行動することと言ひ換えることができるかもしれません。そうした意味では、美しい地域は与えられるものではありませんし、守るものでもなく、つくりあげていかねばなりません。皆さんの地域への働きかけが地域の美しさを増やすこととなります。一つひとつ活動の輪を広げていきたいと思います。

平成十二年度の当初予算 さて、平成十二年度の当初予算 でありましたが、一般会計におきましては経額二百九億円を計上いたしました。 近年の地方財政は、長引く景気の低迷による地方税の減収、また、国の数次にわたる経済対策に対応した地方債の増発などにより多額の借入金を抱えるなど厳しい状況にあります。こうした状況の中で、市民生活に直結する社会資本の整備、介護保険制度の実施をはじめとする地域福祉施策の充実など、少子・高齢社会に対応していくためには、財政全般にわたって徹底した改革を計画的に進めることが求められております。

なお、四月からの介護保険制度の実施に伴い創設される介護保険特別会計につきましては、平成十二年度の当初予算で二十七億二千二百万円を計上したところであります。その他の特別会計等の当初予算額であります。 六十八億四千二百三十万円 下水道事業特別会計 五十一億三千六百八十万円 国民健康保険特別会計 四十二億二千九百五十万円 工業団地造成事業特別会計 六億五千二百二十万円 水道事業会計 二十八億四千五百五十七万三千円 となりまして、 各事業についての具体的な内容は、予算の提案理由説明におきまして申し述べることにいたしました。以下、分野ごとに考え方を中心に特に配慮した点を順次説明申し上げます。

会 計 名	予算額(歳入・歳出)	前年度比
老人保健特別会計	68億4230万円	- 9.2%
下水道事業特別会計	50億3680万円	+ 4.5%
国民健康保険特別会計	42億2950万円	+ 7.2%
工業団地造成事業特別会計	652万円	+ 106.4%
介護保険特別会計	27億2200万円	新設
水道事業会計	28億4557万円	+23.9%

*公共用地先行取得事業特別会計は廃止されました。

特別会計等の予算

が、二十一世紀に向け、より一層環境に配慮した美しい地域づくりの視点で取り組みを進める所存であります。ところで、本年は、新たに約百十三ヘクタールが市街化区域に編入されます。平成十二年度におき

ましては、活力のある安定したまちを目指して「新津市都市計画マスタープラン」の策定を予定しているところであります。また、住みよい都市環境を整備してまいりますと考えております。

最初に、交通網の整備に関する施策であります。 車は、私たちの生活に利便性を与えてくれる反面、交通事故や交通渋滞、さらには排気ガスによる地球温暖化や酸性雨等さまざまな問題を投げかけております。車の

みに頼るのではなく、鉄道やバスといった公共交通機関、徒歩や自転車等を総合的に組み合わせ、環境にやさしくエネルギー負荷の少ない交通体系の構築を図っていかねばなりません。そのためには、これまでような増加する自動車の交通量に対応するという追従型の考え方から、交通量そのものをコントロールしていくという交通需要マネジメントの考え方に立った交通体系を確立していくことが必要となります。二十一世紀は、車を賢く使う時代でなければなりません。本市は、昨年建設省の「自転車利用環境整備モデル都市」の選定を受けましたが、これも交通の需要を調整していくという考え方を基本としたものであります。新津駅を中心とする市街地での自転車ネットワークの形成と、中心市街地と金津丘陵の文化施設群とを結ぶサイクリングロードの整備を中心に、自転車が快適かつ安全に走行できる空間づくりなど利用環境を整えていく予定にしております。また、これまで整備を進めてまいりました新津駅東西歩行者道と西口交通広場につきましても、駐輪場の整備や関連する道路整備により歩行者、自転車の安全確保と利便性をいっそう高めていく考えであります。同時に、東口駅前広場整備につきましても駅舎の実施設計に入ることになっております。



整備が進む新津駅東西歩行者道

ので、鉄道、バス、自動車、自転車、歩行者の結節点となる駅の役割を高め、総合的な交通体系の確立に努めてまいります。 なお、自家用車から鉄道への乗り換えという新駅設置によるパーク・アンド・レールライドシステムにつきましても、新潟都市圏の中で関係市町村との連携を深め、実現に向け努力してまいりますと考えております。

さて、これまでの車中心の画一的な道づくりから、人中心のコミュニティ機能を持った道づくりを目指して整備を進めてまいります。新築町一〇号線は新年度で事業が完了いたします。今後も市街地や住宅地の生活道路につきましても、地域の特性に配慮しながら人によさしい道づくりを進めてまいります。



グラウンドに雨水を一時的に貯留し水害防止

次に、水害対策であります。 近年の水害は、短時間での多量の降雨が排水能力を超えて一挙に溢れでる典型的な「都市型・内水型水害」となってきたため、まず、床上浸水被害をなくすことを最優先に公共下水道雨水整備に取り組んでいるところであります。 新川駅東側地区におきましては、新年度から(仮称)小阿賀ポンプ場の工事に着手し、同時に幹線管渠工事を進め、平成十四年度での供用を予定しております。田家・中沢地区におきましても、排



コミュニティゾーン

交通量調査委託料 350万円

新しいインターチェンジ建設に向けての交通量解析調査費です。

(仮称)小阿賀ポンプ場整備事業 4億3700万円

信越本線東部荻川地域の浸水解消のため、平成十四年度完成を目指してポンプ場を造ります。

南部雨水一号幹線整備事業 2億7800万円

田家・中沢地区の浸水解消として、秋葉丘陵からの雨水を排除する管の信越本線横断部分の工事を行います。